

気道異物の除去方法

◎気道異物による窒息

気道異物による窒息とは、たとえば食事中に食べ物で気道が完全に詰まって息ができなくなった状態です。とくに、食事中に起こることが多く、小さい子供や高齢者は成人に比べて、食べ物などを飲み込む機能が低いため窒息を起こしやすいといわれています。

1. 早い発見

もし、食事中にむせたり、苦しそうな顔をしたら、どうしたらいいのでしょうか？

それは、周りの人が**早く気が付いてあげる**ことが**適切な対処の第一歩**なのです

そして、次のことを確認してください。

◎咳ができる

○気道に完全には詰まっていない状態です。

強い咳をさせることで**自力で異物を出す**ことができることもあります。

◎咳ができない(声が出ない・苦しそう・顔色が悪いなど)

○このような場合には、**窒息を起こしている**可能性があります。

窒息を起こすと、親指と人差し指でのどをつかむような仕草をとることがあります。これを、「窒息のサイン」といいます。



窒息のサイン

この仕草をみたら周りの人は

・119番通報 ・異物除去の手順

をいち早く行ってください

2. 119番通報と異物除去

窒息と判断すれば、ただちに119番通報を誰かに依頼した後に、異物除去(腹部突き上げ法や背部叩打法)を試みます。

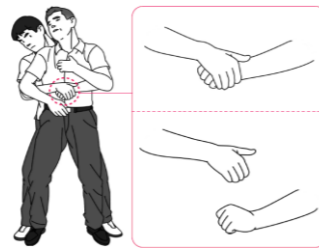
異物除去法

① 腹部突き上げ法

●腕を後ろから抱えるように回し、片方の手でへそを確認します。

●片手で握りこぶしを作り、その親指側を傷病者のへそより少し上に当てます。(みぞおちには当てない!)

●その上をもう一方の手で握り、すばやく手前上方に向かって圧迫するように突き上げます。



腹部突き上げ法



小児に対する腹部突き上げ法

◎妊娠していると思われる女性や高度な肥満者には、腹部突き上げ法は行えません。

◎腹部突き上げ法を実施した場合は、腹部の内臓をいためる可能性があるため、異物除去後はすみやかに医師の診察を受けてください。

② 背部叩打法

●手の付け根で左右の肩甲骨の中間あたりを力強く何度も連続してたたきます。

●立位で行う場合は、傷病者が意識を無くして転倒しないようにしっかり保持する。



背部叩打法

◎腹部突き上げ法と背部叩打法は、状況に応じてやりやすい方法を実施してください。

◎1つの方法を数度繰り返しても効果がなければ、もう1つの方法に切り替えてください。

異物が取れるか反応がなくなるまで、2つの方法を数度ずつ繰り返して続けます。

乳児(1歳未満)に対する気道異物除去の方法

●**反応がある場合**には、**背部叩打法**と**胸部突き上げ法**を実施します。

●**背部叩打法**:腕の上に乳児をうつぶせに乗せ、手のひらで乳児の顔を支えながら、頭部が低くなるような姿勢にして突き出し、もう一方の手で、背中を異物が取れるか反応がなくなるまで強くたたきます。



乳児に対する背部叩打

●**胸部突き上げ法**:片方の腕に乳児の背中を乗せ、手のひら全体で後頭部をしっかりと持ち頭側が下がるように仰向けにし、もう一方の手の指2本で両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とする胸骨の下半分を力強く数回連続して圧迫します。



乳児に対する胸部突き上げ

※乳児に対しては**腹部突き上げ法**は行いません!

◎**異物が取れるか反応がなくなる**まで続けます。

反応がない場合

◎**反応がない**

◎**応急手当をおこなっている途中でぐったりして反応がなくなった場合**

**ただちに
心肺蘇生を実施する**

●心肺蘇生を行っている途中で、口の中に異物が見えた場合は、異物を取り除きます。

●口の中に異物が見えなければ、異物を探すことはせずに心肺蘇生を続けてください。

ファーストエイド

●**出血** けがの部位にガーゼやハンカチ、タオルなどを当てて、その上から直接圧迫して止血を試してみてください。止血のさいに、可能であれば救助者はビニール手袋を着用するか、ビニール袋を手袋の代わりとして使い、けが人の血液に直接、触れないようにしましょう。



●**すり傷・切り傷** 傷口を土や砂などで汚れた状態であると、化膿したりして傷の治りに支障をきたす場合があります。そのため、傷口をすみやかに水道水など清潔な流水で十分に洗ってください。

●**捻挫・打ち身** 冷却パック・氷水などで、けがをした部位を冷やしましょう。そのさい、冷やしすぎないようにするため、冷却材を清潔なタオルやハンカチなどで覆ってから、けがの部位へ当てましょう。

●**骨折** けがで手足が変形している場合は、骨折が疑われます。変形した手足を添え木などで固定することで痛みを和らげたり、さらなる損傷を防ぐことができます。変形した状態を元に戻す必要はありません。

●**首の安静** 自動車にはねられた、高所から落ちた、あるいは顔や頭に大きなけががある場合には、首の骨(頸椎)を痛めている可能性があります。このような場合、首を安静に保つ必要があるため、傷病者の頭を手で両側から包み込むように支えて、首が動かないようにする必要があります。

●**やけど** すみやかに、水道の流水で痛みが和らぐまで10分以上冷やしてください。水泡(水ぶくれ)は傷口を保護する効果があるので、つぶさないように冷却します。やけどの範囲が広い場合、できるだけ早く医師の診察を受けてください。またこの場合、冷却しすぎると体温が極端に下がることがあるので、過度な冷却は避けましょう。

●**けいれん** 発作中の怪我の予防と気道確保が大切です。舌を噛むことの予防でハンカチ等を口に入れると窒息や歯の損傷などの原因になります。けいれんが治まらない場合は119番通報してください。治まった後は反応を確認して、反応がなければ心肺蘇生の手順を行います。

●**熱中症** 傷病者を涼しい場所で安静にさせ、塩分を含んだ飲み物(経口保水液・スポーツドリンク)を与えて体を冷やします。体を冷やすために、衣服を脱がせて体を濡らし、うちわや扇風機で風を当てると効果的です。なお、意識がもうろうとしている、体温が極端に高い時などの症状がある場合は、119番通報し、救急隊が到着するまで体を冷やし続けてください。

